



○ 当院の「Drug Information」

12 年間の変遷について

当院では、医薬品の適正使用および安全性管理の向上を目的として、原則月 1 回「Drug Information」を発刊しています。「Drug Information」は、医療現場において医療従事者が把握しておくべき薬事情報を体系的かつ実践的に整理し、日常診療に直結する情報提供を行うことを目的としています。

掲載内容は、添付文書の記載要領改正や医薬品リスク管理計画(RMP)の概要・公表情報をはじめ、バイオ医薬品およびバイオ後続品(バイオシミラー)に関する解説など、制度・科学的背景を踏まえた情報を幅広く発信しています。

また、臨床現場で課題となりやすいテーマとして、高齢者における多剤服用(ポリファーマシー)と転倒リスク、在宅医療で使用可能な注射薬と在宅患者訪問薬剤管理指導料の実務的整理、女性・男性それぞれの更年期障害に対する薬物療法、市販薬の乱用(オーバードーズ)に関する注意喚起など、職種横断的に共有すべき臨床的課題についても継続的に取り上げてきました。

そこで今回、当院における「Drug Information」について Comedix で参照可能な 2013 年から 2025 年までの 12 年間の内容の変遷を振り返り、時代背景とともに扱われてきたテーマの変遷と題名について以下に概説します。

1. テーマの変遷について

当院の「Drug Information」は、単なる医薬品情報の周知にとどまらず、医療安全体制の構築や医療資源の最適化を支える情報基盤として発展してきました。その変遷を以下に時系列で紹介します。

■ 2013 年～2015 年

この時期の「Drug Information」で取り上げられたテーマは、牛乳・卵などの食物アレルギー、妊娠と薬、光学異性体、医薬品の命名といった普段薬剤に関わる機会の少ない医療職種には馴染みの少ない内容が中心でした。これらの話題は一見教科書的に見えるものの、実臨床の場では誤解や思い込みが生じやすく、対応を誤ると医療安全上のリスクにつながり得る領域です。この時期の「Drug Information」は、そうした分かりにくい情報を整理し、背景や考え方を含めて可視化することで、院内全体に最低限の安全基盤を構築する役割を担っていました。

■ 2016年～2018年

この時期になると、「Drug Information」のテーマはより実臨床に即した内容へとシフトし、「この患者に使用してよいのか」「どこまでが許容範囲なのか」といった、現場で実際に生じる具体的な疑問に答えるものが増加しました。妊娠・授乳中の薬剤使用、腎機能・肝機能低下時の投与判断、高齢者や多剤併用患者への配慮など、日常的な疑義照会や医師・看護師からの問い合わせを強く反映したテーマが多く取り上げられています。

この時期の「Drug Information」は、単に禁忌や可否を列挙するのではなく、その判断に至る背景や考え方を整理して示すことで、医師の臨床判断を支援する役割を担うようになりました。さらに、看護師が患者観察や服薬説明を行う際の留意点にも踏み込む内容が増え、「Drug Information」は薬剤師向けの専門資料にとどまらず、多職種が実務の中で「使える」資料へと変化しました。このことから、本時期は「Drug Information」が教育的資料から、実践的な臨床判断支援ツールへと進化した段階であったといえます。

■ 2019年～2021年

この時期の「Drug Information」では、単純に「白か黒か」を決める情報提供から一步踏み込んだ内容が増えていったことが大きな特徴でした。明確な禁忌ではないものの注意が必要なケース、複数の代替薬が考えられる状況、用量調整や厳密なモニタリングを前提として使用を検討する場面など、条件付きでの判断を求められるテーマが中心となっていきました。これは、ガイドラインや添付文書の記載だけでは対応しきれない臨床場面が増加し、画一的な判断が通用しなくなってきた時代背景を反映しています。

この時期の「Drug Information」は、結論を一方的に示すものではなく、想定されるリスクとベネフィットを整理し、医師が最終判断を行うための判断材料を提示する役割を担うようになりました。さらに、患者への説明責任を強く意識した構成となり、医療者が「どのように説明し、どのように合意形成を図るか」までを見据えた「Drug Information」が増加した点も大きな特徴であると言えます。

■ 2022年以降

近年の「Drug Information」は、個々の症例に対する対応を超え、院内全体で共有される「判断の基盤」としての性格を一層強めています。フォーミュラリや院内ルール、既存の運用方針との整合性を意識しながら、誰が読んでも同じ理解に至り、同じ判断に近づけるよう、構成や表現が整理されている点が大きな特徴です。

また、若手医療者や異動者への教育、業務の標準化、円滑な引き継ぎを意識した内容が増え、これまで個人の経験や暗黙知に依存していた判断を、組織として共有可能な知識へと転換する役割を担うようになってきています。

2. 12年間の「Drug Information」について



号数	タイトル	発行年月日
239	牛乳アレルギーと薬	2012年9月
240	アシュトンマニュアルについて	2012年10月
241	光学分割医薬品について	2012年11月
242	ユニークな命名の薬品について	2012年12月
243	妊娠と薬	2013年1月
244	医療用テープについて	2013年2月
245	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について	2013年3月
246	授乳と薬	2013年4月
247	コルベット安全性情報	2013年5月
248	目にしみない点眼剤について	2013年6月
249	風疹について	2013年7月
250	血管外漏出に注意が必要な薬剤について(抗がん剤以外)	2013年8月
251	バイオシミラー(バイオ後続品)について	2013年9月
252	栄養ドリンク剤に含まれるカロリーについて	2013年10月
253	動物咬傷による感染症の治療について	2013年11月
254	高齢者や嚥下機能低下患者における薬の服用方法の工夫について	2013年12月
255	ヤーズ安全性情報	2014年1月
256	肥満症の薬物療法について	2014年2月
257	タミフル耐性インフルエンザウイルスについて	2014年3月
258	サンスクリーンについて	2014年4月
259	添付文書の警告欄に定期的な検査に関する記載がある医薬品について	2014年5月
260	自動車運転等の禁止等に関わる医薬品(内服薬・外用薬)について	2014年6月
261	遺伝子関連検査と各種がん遺伝子に作用する薬剤について	2014年7月
262	注射用キット製剤の有用性について	2014年8月
263	特定薬剤治療管理料と当院におけるTDMの運用について	2014年9月
264	ソブリアード安全性情報	2014年10月
265	オードライズド・ジェネリック(AG)について	2014年10月
266	当院採用の多規格薬剤について	2014年11月

号数	タ イ ト ル	発行年月日
267	男性更年期障害(LOH 症候群)について	2014 年 12 月
268	吸入療法に用いられるデバイスと注意点について	2015 年 1 月
269	ラミクタール安全性情報	2015 年 2 月
270	転倒の原因となる可能性のある薬剤について	2015 年 3 月
271	薬価基準未収載医療用医薬品について	2015 年 4 月
272	分子標的治療薬(内服)と食事の影響について	2015 年 5 月
273	デング熱について	2015 年 6 月
274	周術期における抗血栓薬の休薬と再開について	2015 年 7 月
275	自動車運転等の禁止等に関わる医薬品(内服薬・外用薬)について	2015 年 8 月
276	予防接種の接種間隔と同時接種について	2015 年 9 月
277	劇症型溶血性レンサ球菌感染症について	2015 年 10 月
278	安定ヨウ素剤に関わる運用について	2015 年 11 月・12 月
279	当院採用の後発品名称と先発品名称との違いについて	2016 年 1 月
280	カリウム値へ影響を与える薬剤と食品について	2016 年 2 月
281	医薬品医療機器等法(改正薬事法)について	2016 年 3 月
282	グレープフルーツの成分と薬物との相互作用について	2016 年 4 月
283	便色調に影響を及ぼす可能性のある薬剤について	2016 年 5 月
284	ジカウイルス感染症について	2016 年 6 月
285	サルコペニアについて	2016 年 7 月・8 月
286	エコミークラス症候群について	2016 年 9 月
287	高齢者の投与量に上限がある、または高齢者の用法用量が成人の通常量と異なる薬剤について	2016 年 10 月
288	ダニ媒介性脳炎について	2016 年 11 月
289	ビスホスホネート関連顎骨壊死について	2016 年 12 月
290	セルフメディケーション税制対象医薬品等について	2017 年 2 月
291	オピオイドスイッチングについて	2017 年 3 月
292	便秘と下剤の種類について	2017 年 4 月
293	自動車運転等の禁止等に関わる医薬品(内服薬・外用薬)について	2017 年 5 月
294	服薬補助ゼリーについて	2017 年 6 月
295	ヒアリに刺された場合の留意事項について	2017 年 8 月
296	点眼薬の使用方法について	2017 年 9 月
297	ワクチンの種類と当院におけるオーダー時検索名について	2017 年 10 月
298	経腸栄養剤について	2017 年 11 月

号数	タ イ ト ル	発行年月日
299	高齢者糖尿病について	2017年12月
300	インスリンアナログ製剤(ノボラピッド注)の輸液容器への吸着について	2018年2月
301	オピオイド鎮痛薬の特徴と種類について	2018年3月
302	在宅医療で使用できる注射薬について	2018年4月
303	DPC(Diagnosis Procedure Combination)の包括評価対象外となる高額薬剤について	2018年5月
304	処方オーダー時の「3文字」入力にて薬剤選択に注意を要する薬剤について	2018年6・7月
305	院内製剤から市販化された医療用医薬品について	2018年8月
306	塗り薬の使用方法・使用量等について	2018年9月
307	食欲不振に使用する薬剤について	2018年10月
308	高齢者と薬について	2018年11月
309	ポリファーマシーについて	2018年12月 2019年1月
310	男性で避妊が必要な薬剤について	2019年2月
311	術前に休薬が必要な薬剤について	2019年3月
312	成人がワクチン接種で予防すべき感染症について	2019年4月
313	ページニオ錠に対する安全性情報	2019年5月
314	高齢者の不眠症と治療について	2019年6月
315	スポーツ貧血と注射用鉄剤の適正使用について	2019年7月
316	吃逆(しゃっくり)とその治療薬について	2019年8月
317	片頭痛について	2019年9月
318	フォーミュラリーについて	2019年10月
319	医療用麻薬を海外へ携帯する際の手続きについて	2019年11月
320	睡眠衛生について	2020年1月
321	味覚障害と治療方法について	2020年2月
322	薬剤誘発性認知症について	2020年3月
323	インターロイキンについて	2020年4月
324	医薬品リスク管理計画(RMP)について	2020年6月
325	添付文書記載要領の改正について	2020年7月
326	細菌性食中毒について	2020年8月
327	後発医薬品・先発医薬品の名称について	2020年10月
328	バイオ医薬品とバイオ後続品について	2020年11月
329	医薬品名の語源について	2020年12月

号数	タ イ ト ル	発行年月日
330	在宅医療で使用できる注射薬について	2021年 1月
331	ロタウイルス感染性胃腸炎について	2021年 2月
332	自主回収(リコール)について	2021年 3月
333	COVID-19 ワクチンについて	2021年 5月
334	多剤服用と転倒について	2021年 6月
335	グレープフルーツの成分と薬物との相互作用について	2021年 7月
336	光線過敏症について	2021年 8月
337	がん悪液質と治療薬について	2021年 10月
338	フォーミュラリーの成果について	2021年 11月
339	帯状疱疹の治療と予防について	2021年 12月
340	注意しておきたい漢方薬の副作用について	2022年 1月
341	術前に休薬が必要な薬剤について	2022年 3月
342	NSAIDs不耐症・過敏症について	2022年 4月
343	徐放性製剤とゴーストピルについて	2022年 6月
344	当院作成のフォーミュラリーについて	2022年 7月
345	薬剤使用中または予防接種後の献血について	2022年 8月
346	サル痘について	2022年 9月
347	注射薬の皮下投与について	2022年 11月
348	在宅医療で使用できる注射薬について	2022年 12月
349	高齢者糖尿病について	2023年 2月
350	配合剤について	2023年 3月
351	女性の更年期障害と薬物療法について	2023年 4月
352	男性更年期障害とLOH 症候群について	2023年 5月
353	フォーミュラリーの成果について 第2報	2023年 7月
354	ヘルパンギーナ感染症について	2023年 8月
355	薬剤関連顎骨壊死ポジションペーパー2023 の概要について	2023年 9月
356	重篤な肝機能障害時に禁忌となる薬剤について	2023年 11月
357	授乳婦への薬物治療について	2023年 12月
358	市販薬のオーバードーズについて	2024年 2月
359	術前に休薬が必要な薬剤について	2024年 3月
360	性差医学・医療と医薬品について	2024年 4月
361	肥満症と治療について	2024年 6月
362	禁煙外来と禁煙補助薬について	2024年 7月
363	多汗症と治療薬について	2024年 8月

号数	タイトル	発行年月日
364	添付文書の警告欄に定期的な検査等に関する記載がある薬剤について	2024年10月
365	長期収載品の選定療養について	2024年11月
366	血液製剤代替医薬品の取り扱いに関わる規制緩和について	2024年12月
367	術前に休薬が必要な薬剤について「2024年版」	2025年1月
368	講習の受講等が必要な医薬品について「2024年版」	2025年3月
369	授乳婦への薬物治療について「シリーズ抗アレルギー薬」	2025年4月
370	フォーミュラリー一覧について「2024年版」	2025年5月
371	高齢者において投与量上限がある、または成人通常量と用法用量が異なる医薬品について	2025年6月
372	院外処方的一般名処方加算について	2025年7月
373	処方オーダー時の「3文字」入力において薬剤選択に注意を要する薬剤について	2025年9月
374	集中治療におけるフェンタニルとレミフェンタニルについて	2025年10月
375	全身作用型の点鼻剤について	2025年11月
376	授乳婦への薬物治療について（シリーズ③ 消化器官用薬）	2025年12月 2026年1月



2. 今後の方針

これからの「Drug Information」は、単なる情報の蓄積・共有に留まらず、これまでに築き上げた「判断の基盤」をベースに、より患者個々の背景(QOL、アドヒアランス、価値観)に寄り添った情報提供を強化し、高度化する薬物療法における「羅針盤」として、患者安全のさらなる向上と医療スタッフの負担軽減に寄与出来るよう、時代に即したアップデートを続けてまいります。

参考資料)

第239回～第375回 Drug Information より抜粋・加筆